

令和 元 年度

全国学力・学習状況調査 指宿市結果報告

小学校では、国語が全国平均を上回った。中学校では、国語、数学、英語ともに全国平均を下回り、学力の定着に依然として課題が見られる。

文部科学省は、全国の小・中学生の学力や学習状況を把握するために、小学校6年生と中学校3年生を対象とした全国学力・学習状況調査を4月に実施しています。指宿市では令和元年度の調査に全小・中学校が参加しました。教育委員会及び市内の各学校では、この結果をもとに実態を把握し、学力向上に向けた取組を更に充実していきたいと考えています。

なお、この調査は小学校6年生2教科と中学校3年生の3教科のみの実施であることから、市内の全児童生徒の学力を示しているというわけではありません。全体的な傾向と課題を分析し、指導に生かせる内容であることを御理解ください。

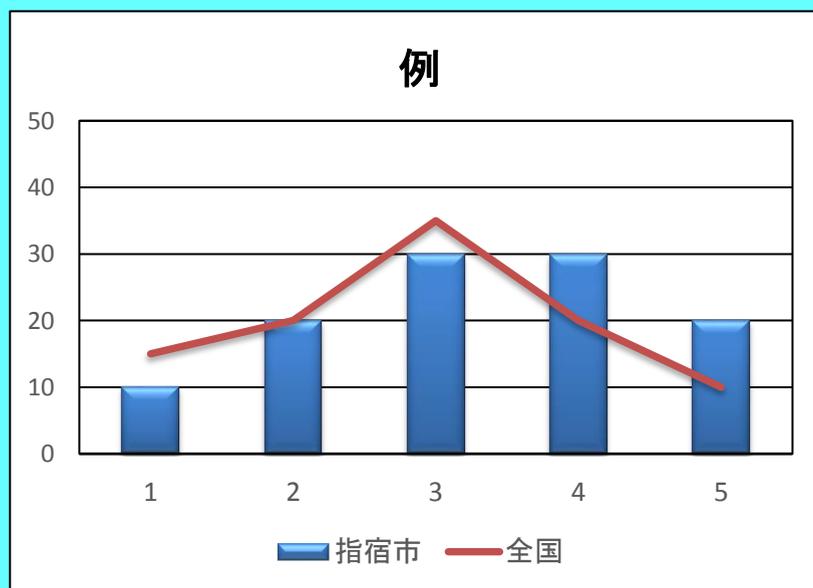
学力調査〔小学校〕国語、算数〔中学校〕国語、数学、英語

今年度から、「知識・技能」に関する問い（A問題）と「活用」に関する問い（B問題）を一体的に出題するとともに、初めて中学校に英語調査を導入し、記述式と口述式（ヒアリング）を出題している。

学習状況調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面などに関する選択形式の質問調査

《結果及び改善策の見方について》



市全体の平均正答率を5段階に分け、それぞれの段階の集団の割合を棒グラフに表しました。折れ線グラフは、全国の平均正答率を表しています。

1 ...	0~20未満
2 ...	20~40未満
3 ...	40~60未満
4 ...	60~80未満
5 ...	80~100

◆ 傾向

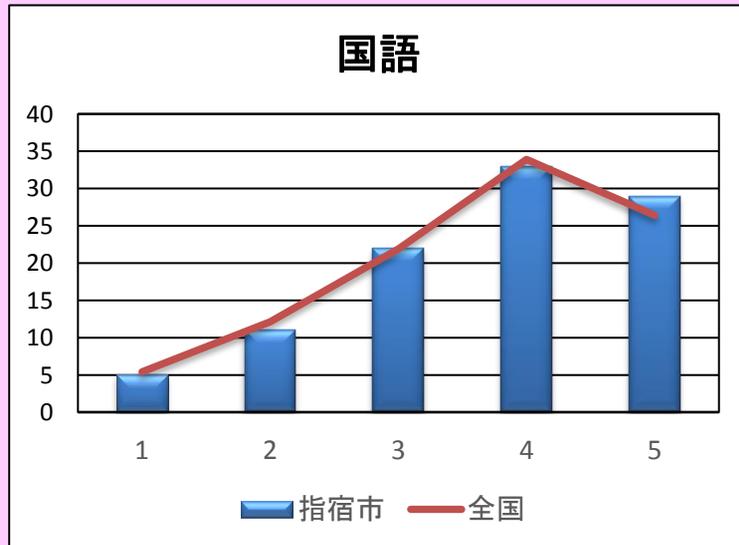
● 改善策

グラフについての分析や傾向を簡潔に述べています。また、該当教科でつまずきのある設問を挙げ、課題を示しています。

今後の改善策を、小中学校のそれぞれの最後に述べています。

学力調査の結果 《小学校》

国語

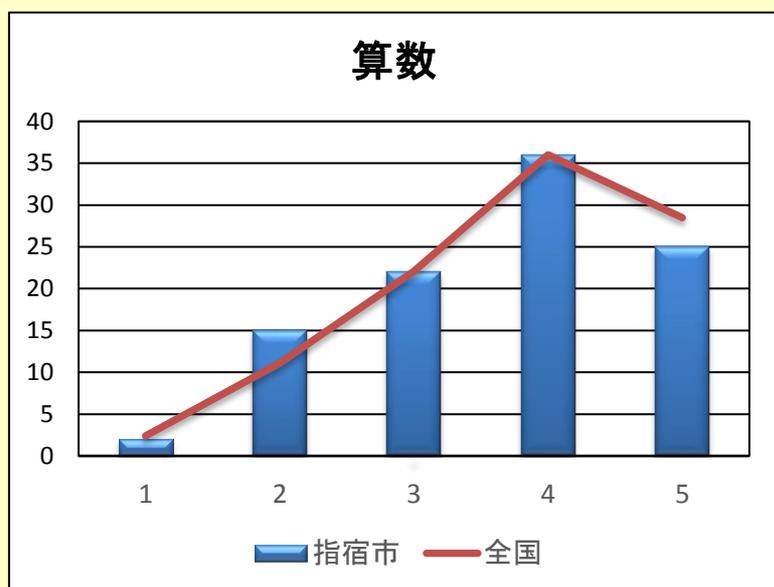


平均正答率	
指宿市	66
県	66
全国	63.8

- ◆平均正答率は全国を上回っていて、県平均と同じです。
- ◆5段階分布では、4段階と5段階の児童が合わせて約62%で、5段階の児童の割合も29%と定着が図られている児童が多いようです。
- ◆漢字や接続語の使い方が定着している児童が比較的多いです。
- ◆自分の考えを理由を明確にして書くことに依然として課題が見られます。
- ◆問題形式では、全国と同様に文章で記述する問題の正答率が一番低く、課題が継続していることがわかります。
- ◆無解答率は、全国と比較して低いことから、最後まであきらめずに問題を解こうとした児童が多かったようです。

学力調査の結果 《小学校》

算 数



平均正答率	
指宿市	64
県	65
全国	66.6

- ◆平均正答率は平均正答率は全国や県をやや下回っています。
- ◆5段階分布では、4段階と5段階の児童が合わせて約61%ですが、2段階と3段階の児童が合わせて37%と下位層も多く、基礎・基本といった「知識」を身に付けていくことが課題になっています。
- ◆判断したことや考えたことを説明することが苦手な児童が多く、自分の考えを表現することに課題があります。
- ◆問題形式では、記述式の正答率が低く言葉や数を使って記述する問題に慣れていない児童が多いようです。
- ◆無解答率は、全国と比較して低いことから、最後まであきらめずに問題を解こうとした児童が多かったようです。

学力調査の改善策 《小学校》

国語

●学校では、自分の考えを理由を明確にして発表する力を身に付けさせるために、自分の考えや理由を文章にまとめたり、まとめたことをペアやグループ・全体で発表し合ったりする学習活動を積極的に取り入れます。

●市教委では、思考力・判断力・表現力を高めるための問題「今週の一問」を各学校に配信し、良問に多くふれる機会をつくります。

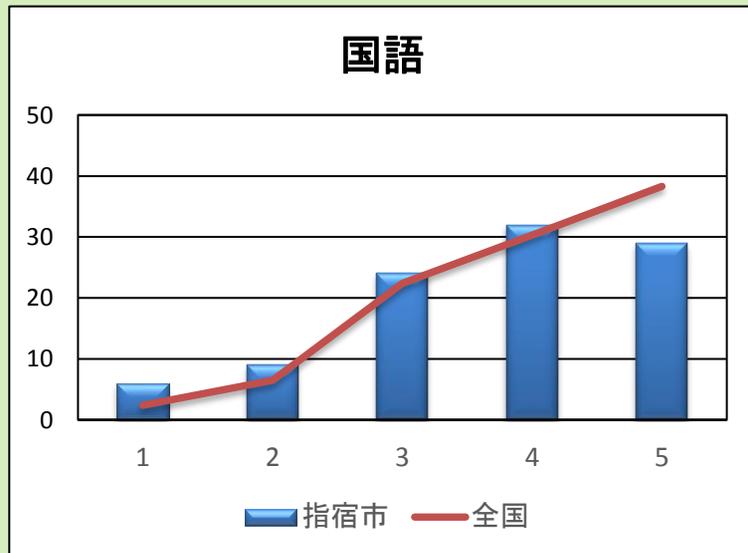
算数

●学校では、学習した内容を振り返り定着する機会をもたせる必要があります。そのために、授業の終わりに振り返る時間を設定したり、個別指導で補充学習を行ったりして、学んだことがしっかり定着できるようにします。

●市教委では、思考力・判断力・表現力を高めるための問題「今週の一問」を各学校に配信し、良問に多くふれる機会をつくります。

学力調査の結果 《中学校》

国 語

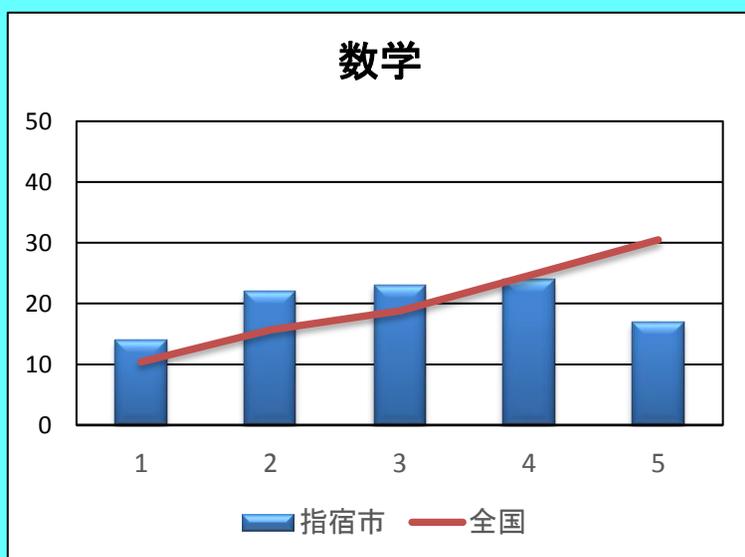


平均正答率	
指宿市	64
県	70
全国	72.8

- ◆平均正答率は、全国や県を下回っています。
- ◆5段階の分布では、全国と比べて5段階の生徒が少なく、1段階や2段階の生徒が多いことから、上位層が少なく下位層が多いことが分かります。
- ◆「読むこと」の領域が低く、文章の展開に即して情報を整理して内容を捉えることに課題がある生徒が多いことが分かります。
- ◆「国語への関心・意欲」が全国と比べて低いことから、生徒が興味関心を高める授業づくりを工夫する必要があります。
- ◆問題形式では文章で記述する問題が全国平均より低く、無解答率も高いことから、文章で答える問題に慣れていない生徒が多いことが分かります。

学力調査の結果 《中学校》

数 学



平均正答率	
指宿市	53
県	57
全国	59.8

◆平均通過率は、全国を5パーセント以上下回り、厳しい結果となりました。

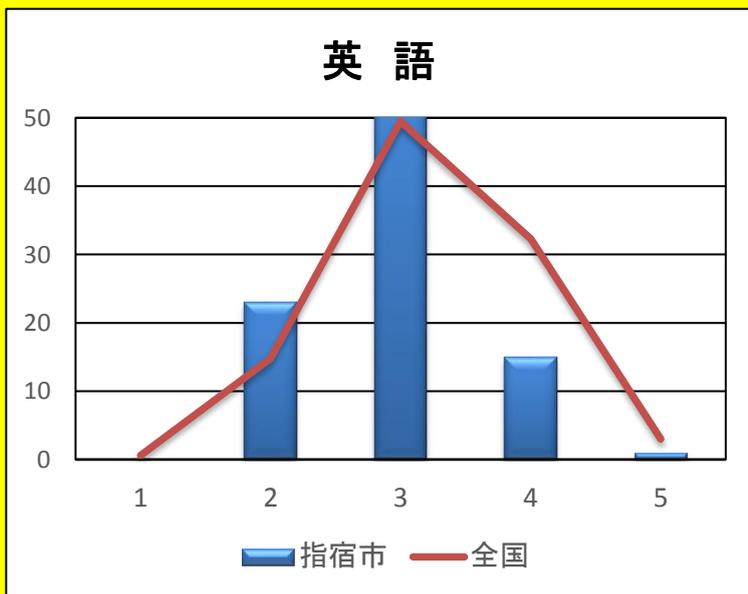
◆5段階の分布では、全国と比べて5段階の生徒が少なく、1段階や2段階の生徒が多いことから、上位層が少なく下位層が多いことが分かります。

◆「知識」に関する問題の定着が低く、基礎・基本が定着していない生徒が多いことが課題となっています。補充学習や授業終末での見届け確認の徹底など、基礎・基本の定着を図る取組を進める必要があります。

◆問題形式では、記述式の問題が全国と比較して低く、無解答率も高いことから、解答を判断した理由を記述して説明することに慣れていない生徒や、問題を解くことをあきらめてしまう生徒が多いことが分かります。

学力調査の結果 《中学校》

英 語



平均正答率	
指宿市	47
県	53
全国	56

- ◆平均通過率は、全国や県を5パーセント以上下回り、厳しい結果となりました。
- ◆5段階の分布では、全国と比べて4・5段階の生徒が少なく、2段階の生徒が多いことから、上位層が少なく下位層が多いことが分かります。
- ◆「書くこと」の領域が特に低く、また、解答時間が不足したと答えた生徒が多いことから、英文を読んだり書いたりすることに慣れていない生徒が多いことが分かります。
- ◆「知識」に関する問題の定着も低く、基礎・基本が定着していない生徒が多いことが課題となっています。補充学習や授業終末での見届け確認の徹底など、基礎・基本の定着を図る取組を進める必要があります。

学力調査の改善策

《中学校》

国語

●学校では、生徒が関心・意欲を高める授業づくりや、根拠を明確にして自分の考えを記述する学習の充実を図ります。

●市教委では、思考力・判断力・表現力を高めるための問題「今週の一問」を各学校に配信し、良問に多くふれる機会をつくります。

数学

●学校では、学習した内容を振り返り定着する機会をもたせる必要があります。そのために、授業の終わりに振り返る時間を設定したり、個別指導で補充学習を行ったりして、学んだことがしっかり定着できるようにします。

●市教委では、思考力・判断力・表現力を高めるための問題「今週の一問」を各学校に配信し、良問に多くふれる機会をつくります。

英語

●学校では、「話す・聞く・読む・書く」活動をとおして、英語の基本的な語や文法事項をしっかり定着できるよう学習の充実を図ります。

●市教委では、思考力・判断力・表現力を高めるための問題「今週の一問」を各学校に配信し、良問に多くふれる機会をつくります。

学習状況調査の結果及び分析

「規則正しい生活
をしています」

「将来の夢や目標をもっていますか？」

小・中学生ともに夢や目標をもっている子供の割合は、全国よりも多いですが、中学生では、その割合が低くなっています。

夢や目標は、学習意欲の原動力になります。日頃から夢や目標について話題にし、意識することが大切です。



朝食や起床・就寝時刻など、規則正しい生活をしている子供は全国平均並みでした。

しかし、生活リズムが不規則な生徒も見られます。

心身の健康は、学習の基本です。しっかり寝て、食べて、規則正しい生活を心がけましょう。

「地域の行事に参加していますか？」

小・中学生ともに地域行事によく参加しています。体験的な活動を通して大切なことをたくさん学んでいます。



「読書の時間は確保されているでしょうか？」



小・中学校とも、指宿市の子供たちは読書好きが多いようです。しかし、個別に比較すると読書量の差が大きくなっているのが実態です。

ご家庭でも「読書の日」を設けて、ゲームやスマホ、テレビなどにかかる時間を読書にあてるなどの工夫をして子供たちの読書量を確保するようにしましょう。

「家庭学習の状況はどうでしょうか？」

小・中学生ともに、家庭学習の時間は、全国と比較すると少ないようです。学校で学んだことを家庭でも復習したり、これから学習する内容を予習することは、学んだことを定着する上でとても大切なことです。また、学校から与えられた宿題だけでなく、自ら課題を見つけて取り組むことも学習意欲を高める上で大切です。

